

調査研究報告書のサマリー

平成26年度老人保健健康増進等事業

＜生涯現役社会づくりに関する活動の国際比較調査研究報告書＞

＜国際長寿センター＞

I. 高齢者の社会参加に関する課題と方向性

1. 鼎談：「高齢者が主体的に地域を創っていくために」

高齢者の社会貢献活動が認知障害予防に役立つというエビデンスを確認するとともに、セカンドライフの就労、介護における自立・自助支援の徹底、フォーマルサービスとインフォーマルサービスの整合性の重要性を指摘。

2. 定年退職後の男性の社会参加の変化とその要因：現役時代の生活と意識に着目して定年退職前から退職後の社会参加を見据えて居住地域の組織や人々と意識的に交流していくこと、および受け皿となる組織の側では参加者間の人間関係に配慮することの必要性を報告。

3. 高齢者のボランティア活動を促進・阻害する要因

東京都内の大規模調査の分析から、「ボランティア活動に関する情報」の重要性が示唆されたが、住民にとっては十分ではない可能性もあり、さらなる改善が必要。

4. 高齢者のエンパワーメントをめぐって—ILCアライアンス・シンポジウムから

高齢者が活躍できる社会をつくることによって支援が必要な人を支えることができるようになる（英）。福祉国家的な考え方から自立に向けた個人の責任を重視する姿勢に転換し高齢者の経済的自立、自尊心の向上にシフトしていかなければならない（南ア）。

II. プロダクティブ・エイジングに関する海外制度調査、インタビュー調査から

1. 高齢者のボランティア活動およびボランティア団体の支援等に関する動向

英・蘭ともボランティア活動をより促進するための奨励策や支援策がとられている。

2. 高齢のボランティアを主体とした地域づくりの課題と方向性

自己のライフスタイルの維持、コーディネーターの重視、きめ細かなトレーニング、行政とのイコール・パートナーシップなどが海外からの示唆として得られた。

3. ボランティアによる認知症の人へのサービスについて —イギリスの例

認知症ビフレンディング・サービスの詳細を報告。

III. プロダクティブ・エイジングに関する縦断調査から

1. 「地域での活動と健康に関する調査」(YLSP Wave1) 分析

地域活動と健康について肯定的な影響を持っていたものは、参加組織数と健康に関する自己統制感であった。

2. J-STAR Wave1 の 2 次分析による退職時期と健康度自己評価の関連

日本では、男女問わず 65 歳以上でも就業している人の方が健康評価がより高い。

IV. 資料編

1. ラウンドテーブルミーティング プロダクティブ・エイジング —日本とオランダ—

オランダの福祉法人からの報告、日本の地域活動からの報告を通じて、高齢者が活躍するエリアマネジメント形成のための諸条件が明らかになった。

総じて、このラウンドテーブル・ミーティングから得られた「高齢者が主体的に地域を創っていく」ための示唆は、以下のように整理できる。

<住民主体のエリア・マネジメントの形成のために重要なこと>

① ボランティアの力

- ・高齢者も「支える側」であるべき。その力を持っていることの周知
- ・ボランティアでなければできない仕事があることへの理解。フレンドリーな、個別的な対応など
- ・「社会貢献」だけではない。自分自身の介護予防、自信を取り戻す手段にもなることへの理解
- ・介護・サポートが必要な人も参加できる仕組みを作る

② ボランティア組織

○ ボランティアの活躍のために

- ・まず導入として、楽しめるプログラムや地域を知る活動が重要
- ・ボランティア本人の希望を最大限生かし、働きやすく支援する
…本人の希望とのマッチングのために丁寧に話し合う
…ボランティア・ホリックではなく、無理のない自然なかかわり
- ・カギは前期高齢者

○ ボランティアをすすめる組織のありかた

- ・専門的な管理と効率的なマネジメントも必要。責任や技能に見合った支払いも
- ・ボランティア・コーディネーターの役割が重要。マッチング、相談の役割
…本人のやりたいことを丁寧にさがす、活動開始後もフォロー
- ・豊富なトレーニングの機会を提供
- ・サービスはあくまで自立支援が目標
- ・世代交代を進めること（若い人は経済的に余裕がないことに配慮。有料ボランティアや有給マネジメント要員の役割も）

③ 行政とボランティア組織との関係

- ・行政とボランティア組織はパートナーの関係
…ボランティア組織は行政や専門家にできないことができる
- ・ボランティア組織と行政にとって、介護予防・孤立予防の効果測定ツールは重要。
また、福祉費用節減効果を明確に示すことが必要

2. プロダクティブ・エイジングについての法制・制度調査

(オランダ、イギリス調査)

3. プロダクティブ・エイジングについてのインタビュー調査

(オランダ、イギリス調査)